日刊　昭和21年6月1日
（1）（除日曜）第三種郵便物認可

昭和24年2月28日
運輸省特認第233号

いわき民報

夕刊　昭和30年11月5日　（土曜日）第2901号

夕刊
いわき民報
発行所
平市田町六三
いわき民報社
編集部電　381
広告専用電　1222

木材の百貨店
一般建築材　建具材　ベニヤ板類
銘木　秋田杉　津島松　木そま　ラワン材　米材　車輌材　枕木　電柱
丸一材木店
平市五丁目電二九〇
工場　平市神谷町電五五六

五十萬圓まで融資
信保協、十日から受付

県信用保証協会平支部では十日から十二月二十五日まで年末融資の保証を受付けることになり、各中小商工業者に呼びかけているが、最高一件五十万円、保証期間二カ月、利子に銀行利子、県の保証融資額は二億五千万円。希望者は平商工会議所内県信用保証協会平支部まで申込むこと。地元銀行と取引のない場合は同協会で斡旋するので地元業界に対する一大福音として注目されている。

信用保証協会平支部談＝二千万円までは平支部で査定するが二十万円を超える場合は県本部で査定するので一応、平支部で書類を受付け、県におくって査定してもらう。融資保証を希望する方は取引銀行から融資保証の承諾を得てくればこちらで便宜を計らいます。

一時から勿来署前に役員会を開き解散式を行った。会長は前植田町長渡辺国之助氏。

九日に回答
水素の手當

磐城市日本水素労組（組合員千六百四十名）では県下のトツプを切つて去る二十五日に今月四日までの回答期限つきで会社側へ越年資金手取り一人平均二万八千円の支給を要求中だつたが、この回答日の四日は午後二時から会社側で経営協議会を開き労組に対する回答について協議したが、まだ数字的に研究する余地があるので九日まで回答を延期したい旨労組に申入れ労組側もこれを諒承した。

最終交付税
三十七百万円

福島県本年度最終の交付税二億四千二百三十万二千円の市町村別配分小名浜工場の新設、磐城セメント、呉羽化学、吉河好間炭鉱、大日本炭鉱東部石炭協会、ICC各代表が集り、火力発電所誘致の最終対策を協議する。当日は各社の拡充計画として旭化成の金属マグネシユーム

常磐炭田開發の恩人 鈴木藏（八）

鈴木光四郎

16 平藏の子孫

去る昭和二十五年一月二十九日の寒い日、私は大浦村大森に在る平藏の生家である板屋を訪ねた。入口にある大松は当時をしのぶよすがに植えられてあり、家の周囲は瀑をもつてめぐらされていた。おそらく事業に成功してから家を改修したものであろうが豪勢な生活がしのばれるのである。当主片寄高雄氏は現在北海道の十勝に居住しているので、遠縁に当る同村大森字原の片寄基松氏（七十五才）を訪ねて子孫の動静をたづねた。老人の話によれば石炭事業に関係していた頃の板屋は威勢のよい生活をしていたそうである。平藏には一男一女あり長男を熊藏という。湯本の長久保忠兵衛の妹を妻としたが年二十一才にて早死した。一子遺腹の男子あり唯助といつた。次男平左衛門を後見とした。女のお能婦は利兵衛燕子勇五郎に嫁した唯助長じて平藏の遺志を継ぎ炭業に従事した。かつて大総督の命をうけ小名浜石炭御用達となり勤務数年の後農業をはげんだ。その他血縁の引いた者は多いが動静は明かでない。平藏の死後僅か九十余年後の今日、その所さえ明かでない。常磐炭田開発者の子孫が、かかる状態にあることは誠に遺憾に思われるのである。

17 慶應時代の常磐炭田

平藏の死後、慶応元年（西暦一八六五年）平藩主安藤対馬守信正は臣服部真幹に命じて領内好間村の小林なる者、赤井の現在の日曹会社の鉱区内に於て採掘したが明治卅二年六月十日、発起人羽鳥宗七、笹川孚一と謀かれてあつた。平藏と共に炭鉱の開発に努力した加納翁の冥福を祈ると同時に作業に着手した。同年東京の石炭を採掘し駄馬で江名の中の港に運び帆船で江戸に出したが駄賃が八百文の高価のため收支が償わず中止してしまつた。

18 明治初期の常磐炭田

明治二年（西暦一八六九年）平の加納作平は片寄平藏の鉱区を継承して採掘に着手した。同年東京の小林なる者、赤井の現在の日曹会社の鉱区内に於て採掘したが明治四年二月、露国船が燃料不足した。平藏と共に炭鉱の開発に努力して石炭積込みのために小名浜港に入港した。小名浜港に外国船が入港したのはこれがはじめてである。坑口は南に向いて当時を物語つて残つている。

明治五年後藤象次郎が所有していた内郷市富鬼ヵ沢坑に於て佛人マンス技師によつて初めて火薬による採掘が行われ地方人を驚かしたといわれている。炭鉱開発が盛んな常磐炭を積出したのに、これがきんになるにつれて明治政府は鉱山最初のことであつた。この頃は「この取締りに乗り出し、明治五年太くんのんこう」と称し俵詰にして政官布告第百号によつて鉱山心得搬出された。去る昭和二十八年一冊を公布した。次いで六年には日月二十五日、弥ろく沢方面を視察、本坑法が公布されて採掘権の意義したとき加納鉱跡を訪ねた。沢が権限が明かにされたので鉱山の左に切れた所に数人の人夫が加納取締りが統一されたのである。鉱跡に残る粉炭をタンガラで運び（この稿は菊地慶雄の資料を参考出していた。入口の大木の下には にした）写真は加納作平の碑「磐城炭業祖先加納作平翁」と書筆者は平一中校長小いた碑が建てられてあり、裏面に二〇位釣れたがこの所オヨギがなく不調。スバ釣りにはオヨギ、キジ餌の他赤玉虫を使用して見ると良い。これからが時期でオヨギに負けない釣果を得る事がある。私は前に、オヨギ餌と並んで試みて見たが完全にこれを圧倒した経験があります。

餌はまだ落ちには少し早いがゴカイにて流し釣りが良い、狙いは力ケ上りで、ハツチン、ダンゴロ、小屋前等で二日に釣友は良い形を上げて来た。

木戸川上の第二発電所下のダムは第二の修理の為抜かれ当分不可第二の吐出口及び上の深場が狙い竿は二間半ヨタテ一匁、ハリス六毛、ハリ六―七匁、餌ハラコ、流しづりダムから下は水門が開放されて居る為流れ強く不可、川口附近は川口がまだ閉じないので流れはやゝ強く、釣りにくいが、魚は相当乗込んで居るので上げ潮時が狙い。一日、尺物混り最高二〇位の漁果、竿は二間半―三間一日振込み、また合せが早いので極く軽目のものが良い、釣果を上げるには合せに慣れる事が肝要、ハリスは時々大物が来るので八毛位を使用した方が良い。

（平市鍛冶町吉国釣具店主人談）

種アワビ約二千貫

小名濱と勿來海岸に移殖

磐城市古滝屋県水産試験場では初めての試みとして北海道産の種苗アワビ約四百八十個（四貫匁）を小名浜港外と勿来市海岸にビニールの紐で番号をつけたセルロイド板を結びつけてこのほど放流した。この試験アワビについて採取しないよう一般に協力方を望んでいるこのアワビは北海道水産試験場が販路開拓のため種苗アワビを貨車で運搬し東北の南端に当る小名浜と勿来海岸に移植を試みたもので貨車の中では死んだアワビはなく今のところ好成績である。本県では従来の種苗アワビを岩手県から移植していたが貨車の中で死んでしまうものが多くこれが対策に苦心も頭を痛めていたものであつた。ところが興地の北海道で移植試験を調べることになつたものでこれに成功すれば岩手県の貨千円の種苗アワビに代つて値の安い北海道アワビを使用することになるので成果が期待されている。

【写真は放流する標識種アワビ】

父の遭難を涙で綴る

阿部君全國で一位入賞

第五回全国小、中学校つづり方コンクールに入賞した磐城市小名浜第一小学校（校長渡辺保氏）三年生阿部健一君（9）＝同市小名川無職よし子さん長男＝は底曳漁船の機関長をしていた父親が海で遭難したときの思い出や悲しみをありのまゝ書いたもので、来る十九日他の入賞者十五名と共に表彰される。

【写真は阿部健一君】

落し物

◇平署＝三十日の一個

◇時計式針

▼三十一日　財布現金二千八百円在中、平市内

▼二日　財布現金在中

運轉合格者

去る十月二十八日施行された自動車運転免許試験に次の六十六名が合格した。

◇自動二輪車　森済次、宇津木忠義、御代光夫、草野春雄、斎藤隆志、猪狩武広、渭葉英一、後藤春雄、金田康男、佐久間一彦、久和正寿、草野良秀、猪狩芳男、小野間俊三郎、根本澄夫、吉田道夫、吉田賢夫、藤田喜一、芦沢英尚、新妻昭平、柴崎力、篠崎幸三、高野公佐、井貞夫、山崎浩司、阿部孝男、高橋義隆、酒井清作、林良正、久野己知夫、宵木栄一、平間弘二

◇普自動車　田中シゲ子、江尻清邦、田口義、国兼栄、後藤一郎、大平章、伊藤春夫、吉田善治、鳥恵幸、武藤武四郎、酒井康夫、菅野直冒、藤谷義一、神谷広治、小野正吉、久保木信雄、渡辺昭、鈴木孝平、門馬徳次、根本ミツ子、大井川由昭、田子春喜、岡田藤男

◇小型四輪車　藤田厳平、八巻光一

◇自動二輪車　鈴木勝雄

つり便り

晩秋の気配愈々濃く、不順だった窒蘿様も漸く定まつて田には黄金の取入れに忙しい、野も山も色とりどりの錦織りなし山口紅葉を賞でて渓谷を渡り、海近く川口に舟を浮かべて白砂に囲まれ岩松のつるべ落しの秋の陽が山に沈んで淡墨一色の画に変る時、夕げの煙りが柴に山裾を曲み、家々の窓りのみ夕闇込みに明々と浮き出す。釣人は帰り仕度に急がしく家路に急ぐ釣舟の潜る竿先きに銀波が跳る明日は日曜日、潮入り川にボラ、ハゼを狙うが、滑流にハヤを釣るか。鮫川及び新舞子横川付近は、その後バチ（オヨギまたはヌケガイ）が抜けず期待は持てない。鮫川はキジまたはエビガニの肉等でハゼを狙うしかない。只だ岩間付近にてチンチン（黒鯛の子）が綿鯛潜りにて釣れて居る。餌は遠エビ、またはエビガニ肉が良い、泉の下川剣付近も同様、横川はミソ又、及び仁井田薄舟宿前にて二時オヨギ餌にてスバの形物が二、三個

【拾得物】

◇黒色万年筆（午後四時ごろ）現金二百円、田町地内

▼四日　十二歳男物腕時計、午前七時正内町地内

◇平駅＝二日　風呂敷包一個、洋大井川由昭、田子春喜、岡田藤男カサ、ハンドバック、鰹子各一矢吹溜、土ヂ、山野辺寛

祝七五三
ビニール靴
各色高級皮靴
大量入荷陳列中
是非お子様とご一緒にどうぞ!!
藤越靴部
平市銀座通り電1282
靴の吉田屋
平市銀座通り　電416

家具専門の店
自家製品
勉強の店
明智家具店
平市中央通りマサゴヤ内電（呼）四六
工場　平市六丁目二三
平信販チケット
御利用下さい

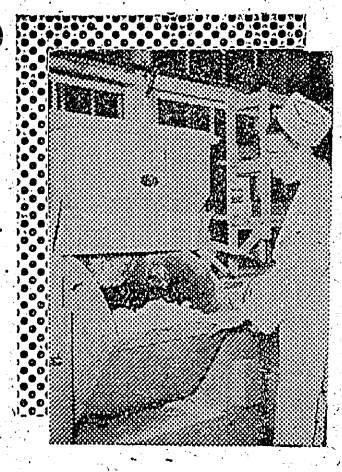
革手袋
80種新入荷
★革手袋のお手入れはお早目にどうぞ
カバンと袋もの専門店
福山
平市2丁目　電317

外務員募集
▽收入腕次第▽歩合制▽月二万円以上▽希望者面談
國際情報社支局
平市月見町六四

祖國印刷製品
平五・電五六
袋屋本店

貴女に心から奉仕する…
ハリウッド
平市・三幸デパート二階・電1327

菊人形協賛一割引サービス
賣出し
毎度御引立を頂き厚く御禮申上げますこの度安くてうまいパンを召上つて頂き度くパンをおいしくする高速度ミキサー
パンを生目の細かい肌のきれいな焼色の揃つたし東京より一流の技術者を招き衛生、設備原料、技術共完備して
（原料は最高 量目は最大 価格は最低）を目標に努力致します故尚一層の御引立を願います
十一月三日より二十五日まで



安くてうまい
東京堂のパン
平市才槌小路　電一一〇八
平市三丁目大通り　電一五九九

農村向きポンプ
平で購入、試運轉

平市総務委員会は四日午前十時から開き、二百万円で購入した新型消防ポンプの試運転と初の放水試験を平市役所前で披露した。

平消防署ではこれで八台のポンプが備えつけられたワケで、このポンプは小型であるが、四輪駆動とあって馬力が強く、坂道でもムリがきくので同署では主に合併地区の火災用に当てることになつた。

新型の特徴として放送設備があり火災現場で放送しながら指揮が出来、平時には火災予防の宣傳放送もできる。この車は背森と平だけにしかないと同署では鼻高々である。

【写真は最新型のポンプ給水試験】

中共へ硫安を輸出
下旬から六千トンを

十一月下旬から年末にかけて小名浜商港から六千トンの硫安が中共に向けて輸出することになつた。この計画をたてているのは日本水素小名浜工場で今月下旬二千トン、来月上旬と中旬にそれぞれ二千トンを小名浜から積出すもので既に二千トン埠頭附近の倉庫には硫安が山とつまれ輸出されるのを待つている。今度の輸出に中共の貨物船を使うかまた決つていないが仕向港も上海になるかタークにになるか日本水素で目下紹介中である。

難航の溫泉問題
きようも區會で協議

溫泉問題に対する常磐市区連合協議会は去る二日午後一時から市役所で開いた。矢吹市長から「送湯量の問題などはこちらから出すべきでないと思われる。新しい協定も炭鉱側と市区などの両者で決めることであるから一方的に協定書を作つて持つて行くわけにも行かないであろうとの意思表示があり討議に入つた結局炭鉱側と折衝することになり午後二時委員一行が炭鉱側に至り石丸庶務課長らと会見し市区側の意向を傳えたのに対し、炭鉱側では

送湯量は現在の五十立方以上増すことは出来ない。水野谷から辰ノ口までの施設費二千八百万円のうち九百万円を負担して貰いたい。

という回答があつた。市区委員は一応さいく穏度で会見を終り五日午後一時から臨時区会を開いて「水野谷から送湯」の件を協議した。水野谷案はすでに決定的のもので可決される模様だが、この区会後市区連合協議会を開いて炭鉱側の意向を傳えてその後の対策を協議することになつたが解決までにはまだまだ相当の時日を要し波乱が予想されている。

耕轉機等の講習

小中高等学校の産業教育担当者のスクーター発動機、耕転機等の実施作業講習が四日午前十時から磐農で開かれた。

銅線百卅貫盜む
五少年を手先に使う

既報　去月二十七日常磐署では常磐市台の山六日雇安彦利夫(当)が小野田炭鉱資材倉庫から銅線五十貫(時価三万五千円)を盗んだ現行犯として逮捕取調べていたが十八九才の五少年を手先に使つて共謀し去月七日夜中同鉱資材倉庫から銅線五十二貫(時価七万五千円)更に五百貫(時価二十万円)を盗み出し、山中にいんとく小出しに持ち出し売つては遊興費や映画ヒロポン代に費消していた。なおこれら五少年たちは昨年三月頃から毎日のように石炭窃盗を働いていたことも自供したが被害数十万円に達する見込みで五日一味を送検した。

老人が服毒
自殺を遂ぐ

常磐市水野谷亀の尾一二〇農佐藤喜一郎さん(七)は三日夜十一時頃自宅寝室で二硫化炭素と猫イラズを混合し一五〇ccをのみ苦悶しているのを家人が発見したが、間もなく死亡した。常磐署で検視したが原因は不明。

娘が服毒
自殺を圖る

三日午後二時半ごろ内郷市小島町新町野菜商加藤安清さん(六二)長女ユキ子さん(三)が自宅二畳間でカーバン一液を飲み苦しんでいるのを母親のミヨさん(三)が発見、内郷署に届出た。調べによるとユキ子さんは近所の評判もよく、家業の八百屋の手傳をしていたが、父の安清さんが中風にかゝつてから口ヤカマしくなりこれを苦に去る二十九日にも家出、平署に保護された事もあり、三日には、父から何故前に家出した時死ななかつたのかといわれたのを苦に自殺を図つたもので、共立病院で手当を加え一命はとりとめた。

學校荒しの少年を檢擧

平署では五日午前十時ごろ同市南町をはいかい中の、川内村大字上川内字古町一〇生れ無職少年A(一七)を窃盗の疑いで逮捕取調べていた。同少年は去る十月下旬平市物見カ岡神社内で平市草野生れ橋本正(三)と共謀で、ドロ公からカメラ二台(一万円相当)を盗んだものだが、更に少年Aは去月二十二日夜半、磐城市泉小学校から現金千四百円をはじめ、十円切手七十枚、万年筆、小刀、ツメ切りなどの盗みを働いていた外、茨城県三千葉郡二の学校(時価三万五千円相当)を荒していた事を自供、なお余罪あるものと追究中。

植田の菊花展
百五十點出品、入賞者決る

愛華な菊花展は秋晴れの当日植田町本町通り小野俣氏宅庭前で盛を開けた。出品数は大菊、小菊、懸崖、管物、切り花など百五十点で絢らんを誇る逸品ぞろい。審査の結果左の通り入賞し来る八日まで一般に観賞させるが希望者に即売する。

【写真は植田の菊花展】

▽大菊の部天位赤津初一、伊藤好一、地位伊藤好一、古川慶福
▽人位遠藤金作、菅野アキ
▽管物の部天位鈴木ひろし、地位滝口善勇、人位箱崎義一
▽切花の部①菅野アキ②園部一已③菅野アキ

常磐菊花展
入賞者決る

常磐市湯本菊花会主催の菊花展示会は四日から七日まで湯本公民館で開いているが四日審査の結果左記諸氏が入賞した。(入賞は天、地、人の順位である)

◇競技花(懸崖)山家惣六
柏本末治、中島導雄
◇管物　横田曽吉、中島導雄、中島導雄
◇細物中島導雄、竹沢襲種、中島導雄
◇大菅柏本末治、水野秀吉、中島導雄
◇切花菅物竹沢襲種、千葉泰治
草野正雄
◇切花管物水野秀吉、白石勝雄
高橋久四郎

作業中重傷

五日午前八時四十五分ごろ常磐炭鉱鹿島坑坑外専用係で貨車輸送作業中、積込夫志賀九郎さん(四七)は貨車とトラックにはさまれ顔、胸に全治二カ月の重傷を負つた。

鮮魚市況
小名浜魚市場調

▽サンマ　水揚十五万貫高値二六円—安値二十円
▽エビ　水揚二百五十貫高値六百五十円—安値六百二十円
▽イカ　水揚二百六十貫高値百四十五円—安値百円
▽水タコ　水揚八百貫高値百十円—安値五十円
トウジン　水揚四千貫高値三十五円—安値八円
▽小アジ　水揚五百貫高値百十円—安値八十円

越智所長の就任祝賀會

石城地区相馬郷友会、馬城会亜支部では常磐炭鉱磐城鉱業所長に就任した越智弼氏の祝賀会を十二日午後四時から平市谷口楼に開く会費五百円、申込所は平市紺屋町真木相(電六五七)一丁目岡田弘成(電一、二四五)あて。締切り十日まで。

十萬圓紛失

鈴木さん届出

四倉町町頭鈴木鶴吉さん(五七)は三日午後四時五十分ごろ平市田町から正内町に至る道で現金十万二千円—風呂敷包千円札—を落したと三日午後五時半平署に届出た。

窪田の球技大會

旧勿来窪田地区の恒例球技大会は六日午前十時から窪田一小学校々庭でアマチユア野球とバレー競技を開く。

二男鵜沼英昭儀

サツ子儀十一月四日午後三時三〇分急逝いたしました　生前の御厚誼を深謝し謹んでお知らせいたします

追つて葬儀は十一月六日午後一時自宅出棺いたします

昭和三十年十一月五日

平市六丁目
喪主　鵜沼光一
親戚代表　草野喜一

新しいDPは富士

鈴　有名デパート専属
ROYALの
紳士服
オーバー
平指定商加盟店
衣料の鈴屋
平市大町電1788

観光銘菓
桃の井
金沢屋

月賦
ラジオは日東
指定商チケット歓迎

七五三のお祝衣裳陳列
七五三
もう
こんなに
大きく……
おさない胸をはずませる　七五三のお召ものはお子様のご成長をお祝いする晴着でございますお母様のお心づくしをそのまゝ　かみやが心をこめて御調製いたします
高級呉服と實用衣料
かみや
平本店　電二五六・二〇一四
小名浜店　竹町電九四

七五三の祝　14日まで
子供服賣出し
楽しい七五三のお祝は洋服で
可愛らしい　お坊ちやん　お嬢ちやんの楽しい　お祝洋服　オーバー　帽子等をいろいろ取揃えて特価奉仕……
ホかや　平・三　電203

★★★★どこよりも安い美味しい★★★★
連日大特賣
★蜂蜜カステラ　一個　二〇円
★磯部おこし　百匁　六〇円
★ジヤムサンド　〃　七〇円
一五圓　五〇圓　五五圓

螢光灯・電球卸
☆螢光灯については月賦の御相談に応じます。
東亞電球工業株式會社
平市新田町二六(電七一)

公共奉仕の店
パブリックサービス
ミツノ菓子店
平市中央通り電二二二番

りについている。この草の根を染料として染めたものがあかね染（あかねそめ）である。「こばのがまずみ」の赤ざんこの様な実が青い葉の間からのぞいている。（東北地方では「がまずみ」属を一般に「ようすみ」と呼ぶが勿論方言に過ぎない）「ごとめうつぎ」も見える。「あきからまつ」も花は過ぎた。「ねむのき」にも既に秋は来て、あの牡丹刷のような美しい花は見るべくもない。此処から、細い山径を小高い丘に登る。「ひさかき」の葉が光っている。近寄って見ると、葉液に小さい固い苗をつけている。（平地では梅の木にからまっている。山畑に

中秋の植物をたずねて（下）

佐川定次郎

◇◇◇

口にねって（ふくらはぎ）に塗布すれば、如何なる足の疲れも、一夜にして回復する妙効があって、その昔、所謂甲資者、伊資者とついた。「忍びの者」（忍術使い）―今のスパイーが秘薬としていた有名なものである。この丘の上からは、私たちの平市が、一望の中にある心ゆくまで眺めて、今日の観察を終る。家に帰って足を伸したら、ズボンに「いのこずち」の実が五つ六つ刺さっていた。何処からついて来たものやら。

植物に関する興味深い、逸文がありますから、参考迄に御目にかけます。

◇さのなはしらすめずらしなのさく。

◇むらさにくさのなはもしそなはらはなそしもはなのさくにさくらむ。

（平市五色町植物友の会員）

◇…

◇…

◇…